

「へその緒プロジェクト」記者懇談会資料

1. 発足の趣旨

今から 56 年前に起こった「カネミ油症事件」。その被害が次世代に広がっています。

母から子へ、そして孫世代へ。PCB(ポリ塩化ビフェニール)及びダイオキシン類の一種のカネミ油症の主たる病因物質であるジベンゾフランの毒性を繋いでいるのが「へその緒」です。

「へその緒」を通して子に、孫に毒性が及んでいることに着目し、「カネミ油症被害者」の確定と救済につなごうとする取り組みを進めて行くため、「へその緒プロジェクト」を発足することにしました。

2. 過去におけるへその緒調査研究事例

(1)カネミ油症事件における油症患者及び一般人のへその緒中の PCB 及びダイオキシン類の分析

①「油症患者の保存さい帯(へその緒)中のダイオキシン類濃度」

九州大学油症治療班古江班長、長山淳哉准教授、福岡県保健環境研究所・

梶原淳睦(かじわら じゅんぼく)氏ら

②「保存さい帯(へその緒)を利用した油症被害者の PCB 汚染評価に関する評価に関する検討」

宮田秀明氏ら摂南大学薬学部

(2)【参考(配布資料なし)】水俣病事件における胎児性水俣病のへその緒中の有機水銀分析

①「水俣における保存臍帯のメチル水銀に関する研究」

原田正純・藤野紘・樺島啓吉

②「水俣病究明初期の臍帯中水銀濃度分析に関する論考」

中地重晴

3. 本日の講師のご紹介

(1)宮田秀明

摂南大学薬学部薬学科名誉教授。専門は環境科学、食品衛生学、公衆衛生学、環境影響評価・環境政策、放射線・化学物質影響科学、医療社会学。

農学博士(大阪府立大学、1979 年)。ダイオキシン類の研究者。

・『ダイオキシン』(岩波新書、1999 年)などダイオキシン関係図書多数。

(2)藤原寿和

早稲田大学理工学部応用化学科卒。東京都環境局で環境行政に 40 年間従事。

化学物質による健康被害や廃棄物処理処分による環境汚染問題を始め、脱原発・被災者支援・放射能汚染測定活動等に取り組む。

化学物質問題市民研究会/廃棄物処分場問題全国ネットワーク/有害化学物質削減ネットワークなどに所属。

カネミ油症被害者支援センター(YSC)初代事務局長。現在は「日台油症情報センター」長